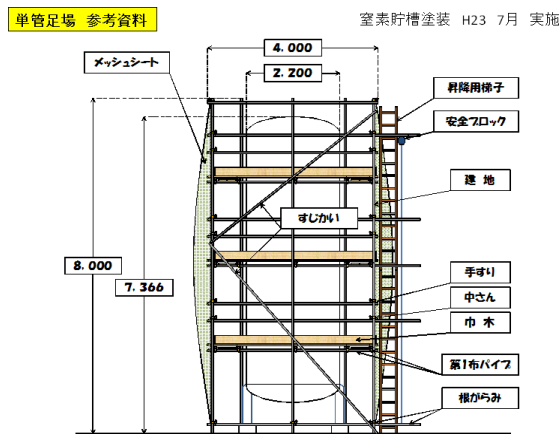


平成24年2月24日『第22回ゼロ災活動発表会』を開催しました。

この発表会は事業所の創業より3年後の平成2年9月1日からゼロ災活動を本格的に開始し、その計画に沿って平成3年3月7日に第1回を開催して以来毎年行っております。ゼロ災活動の目的は、【職場の誰一人絶対にケガをさせまい、そのために全員参加で安全と健康を先取りしていこう】という考えが原点にあります。

ゼロ災活動の組織は、安全衛生委員会の下部組織としてゼロ災小委員会があり、

(1) 管理責任者（総務安全課長）、(2) 委員（操業課員、技術課員、共備サービス所員から各1名）、(3) 事務局（総務安全課）より構成されています。



発表内容の主な変革として、

第1回発表会は主に「ヒヤリハット事例発表（7名）及び質疑応答」と「メンテナンス関係の発表及び質疑応答」の2項目で始まりました。

その後「ゼロ災ビデオ視聴」、「KYT4ラウンドデモンストレーション」、「事事故事例発表」、「KYT実施結果発表（各部署）」、「ゼロ災活動状況」、「業務／ヒヤリハット改善結果発表（各部署）」、「なぜなぜ分析ビデオ視聴」、「なぜなぜ分析実施報告（各部署）」等を実施し試行錯誤をしてきました。

その結果、現在では①「KYT基礎4R実施発表（各部署）」か「足場の見方のポイント発表」などその時々テーマ、②「1年間のゼロ災活動発表」、③国共備業務改善活動発表会の報告、（今年は特別に「東日本大震災 映像で知る津波の脅威」を発表）、④改善提案表彰／ヒヤリハット提出者参加賞進呈、⑤大分労働基準監督署の安全課長又は安全専門官の講話、⑥本社常務の講評という内容で開催しており、時間は2時間15分程度となっています。又平成21年度より工事関係者2名、ローリー関係者2名、内航関係者1名をオブザーバーとして参加をお願いして、事業所の安全活動についてご理解をして頂いております。

それでは、今回の『第22回ゼロ災活動発表会』について紹介します。

2月24日第一会議室の電波時計の長針と秒針が仲良く真上に位置し誰もが14:00を認識し緊張したその時、森田課長の開会の辞に続き、大西所長の挨拶、前園ゼロ災小委員の「誰もが願う 安全操業 皆で築こう ゼロ災害ヨシ！」の掛け声で全員唱和をして気持ちを一つに集中した後、準備したプログラムに添って発表を開始しました。以下、各テーマ毎の発表の概要です。

(1) 1年間のゼロ災活動報告（事務局）

- ①ゼロ災小委員会は毎月1回開催しております。
- ②ゼロ災パトロールは年6回のパトロールで、計87件の指摘事項が出ましたが40%に当たる35件が既に処置済みとなっており、残りの52件についても来年度中には対策を完了する予定となっております。
- ③ゼロ災教育実施状況については、このゼロ災発表会の他に、「警察署員による交通安全講話」、「成人病検診センター講師による健康講話」、「日本赤十字社講師による救急処置講習」、「消防署員による空気呼吸器取扱講習」を実施しました。
- ④ヒヤリハットは、合計177件が提出され、内容はソフト的原因によるものが136件、ハード的原因によるものが41件となっており、96%に当たる170件がすでに処置済です。ヒヤリハットの対策を水平展開をする為、平成24年1月1日より「分析チェック項目」を追加して運用しています。
- ⑤夜間消防訓練は、毎月1回、計器室の直主任と直員の2人及び警備員4名の計6名の夜間勤務者のみでの、異常事態を想定した訓練を行いました。
- ⑥保安防災教育の訓練として、陸上総合防災訓練、中人数防災訓練、海上総合防災訓練をそれぞれ年1回、警備員放水訓練を年4回、緊急連絡網訓練を年2回、門前集合訓練を年1回、実施しました。



- ⑦保安防災教育の研修として、消防車操作取扱説明会、埠頭保安規程周知説明会、副防災管理者研修会を年1回実施しました。港湾施設保安員講習も随時検討しております。
- ⑧改善提案制度は、平成4年から操業課だけでスタートをし、その後、平成16年10月より事業所全体に広めました。過去19年間に約620件の提案があり、昨年の1年間は計44件その内採用34件、保留5件、不採用5件となっております。

以上の通り、今年も年間50回を超えるゼロ災活動を実施してきました。一般的に、『ヒューマンエラーが絡む事故・災害をゼロにすることは難しい』とも言われていますが、事業所全員のゼロ災活動に対する真剣な取組が、創業以来25年間の無事故・無災害の継続に繋がっていると思っております。

(2) 研究発表『足場の見方のポイントについて』（丹生社員）

大分共備では、足場を使用した工事が多く行われています。足場作業には作業主任者がおり、安全に作業を行うようになってはいますが、安全をより高めるために、「工事施工者だけでなく我々工事の発注者側も足場に関する知識を少しでも身に付け、危険な箇所・作業について、指摘・改善が出来るようになること」を目標にした研究成果の発表です。

研究成果の1つである「足場を見るにあたって特に大事なポイント」を紹介し

- 1) 床材や建地、布などの足場材の接続・固定が確実にできているか、ゆるみはないか
- 2) 手すりや、中さん、幅木などは確実に取付けられ、脱落や開口部はないか
- 3) 物体の落下防止措置が、適切にできているか、幅木やメッシュシートなどが取付けられているか
- 4) 足場の脚部は沈下していないか、ベース金具や、根がらみ、敷き板などが適切に取り付けられているか
- 5) 足場の補強をする筋かいや、壁つなぎは適切に取り付けられているか

今後の課題は、今回研究した「足場を見るにあたって特に大事なポイント」を工事前に行っている安全対策会議のチェックリストに追加する等、実践のための標準化を検討することです。

(3) 事例発表「東日本大震災 映像で知る津波の脅威」(江口社員、松田社員)

東日本大震災の津波襲来時の映像を通して、津波に対する脅威や、自然の脅威を全員で共有しました。津波が大きな建造物を破壊し、根こそぎ洗い流していく様子から、防災計画の基本は、何よりも『人命第一』であることを改めて感じました。今後は、国、県などから提示される防災基本計画ガイドラインをもとに当社の「BCPマニュアル(地震、津波偏)」の見直しが必要になります。M8からM9級が想定される東海、東南海、南海、日向灘の3連動、4連動の地震・津波、また4.45mの津波が7分で到達すると想定される別府湾活断層地震、これらに対する初動処置、行動計画には東日本大震災の教訓を最大限に活かしたいと思えます。



(4) 改善提案、ヒヤリハットの事例紹介と表彰(大西所長)

①改善提案紹介「津波対応措置暫定ガイドラインの作成及び運用」(前園社員)

②ヒヤリハット紹介「アームブリーダー弁より勢いよくガス・・・」(前園社員)

大西所長より、改善提案優秀賞の技術課高田社員や、ヒヤリハット参加賞の操業課榎本係長に代表として夫々の記念品が贈呈されました。

(5) 安全講話（大分労働基準監督署 石井様）

平成23年度中に大分市内で発生した労働災害事故についてスライド映像を踏まえながら原因及び再発防止対策等の講話がありました。また、「今日のゼロ災活動発表に見られる真剣、且つ活発な姿勢から、この事業所が25年間の無事故・無災害を継続していることが伺えます」との感想も戴きました。

(6) 講評（田淵常務）

ゼロ災活動を、ISO・品質マネジメントシステムの「改善プロセス」に位置付けて、「ゼロ災活動は、事業所の安全維持と効率化に、必要不可欠な重要なプロセスです。単なるイベントとしてではなく日常の業務として取り組んでください。ゼロ災の考え方、方法を日常に活かしてください」など、ゼロ災活動全体に対する講評がありました。

その後、ゼロ災小委員の江口社員の「ゼロ災害へ全員参加 ヨシ！」と松田社員の「ゼロ災で行こう 大分共備 ヨシ！」の掛け声で締めめの全員唱和をした後、森田課長の閉会の辞で無事終了しました。

今回のゼロ災活動発表会は今まで以上に活発であったと思います。ヒヤリハットの事例発表では、オブザーバーとして出席していただいた陸上部会の方から、移動監視者の当事者の目線で、改善策をその場で提案していただきました。また同様に海上部会の方からは、東日本大震災における内航荷役作業の実際の経験談をお聞きすることができました。今後もゼロ災の原点、【職場の誰一人絶対にケガをさせまい、そのために全員参加で安全と健康を先取りしていこう】を目標に、毎日の活動を1つ1つ確実に実行していきたいと思えます。

ご安全に！！

（総務安全課 藤澤係長）